

京都市はぐくみ推進審議会平成30年度第2回「子どもの健全育成推進部会」「教育環境づくり部会」「支援を必要とする子どものための部会」共同部会摘録メモ（意見抜粋）

日時：平成31年2月25日（月）18：30～20：30

場所：職員会館かもがわ3階（第1，第2多目的室）

出席委員：伊豆田委員，井筒委員，岡委員，大澤委員，小谷委員，杉原委員，芹澤委員，鶴丸委員，徳岡委員，長澤委員，初田委員，藤本明美委員，細川委員

欠席委員：雨宮委員，石塚委員，渋谷委員，中川委員，藤本明弘委員，山手委員

（資料2：放課後の過ごし方に関する調査（小学校用）への意見等抜粋）

芹澤委員 まなび教室では長期休暇の実施を希望する声が多くなっているが，実施状況についてどうか。また，低学年では学童の利用が多いが，学年が上がると利用が減少し，保護者のパート就労等も増えてくる。長期休暇中に高齢児がどこで過ごしているかこのデータから見えない。

京都市 放課後まなび教室については，小1～小3の登録率が高くなっている。週3日～5日，ボランティアにご協力いただいて実施しているが，夏休み中はプール，サマースクール等の様々な活動があること，ボランティアが集まりにくい等の要因から2割程度の学校での実施にとどまっている状況である。

井筒委員 両親がいない場合は学童利用が多いパターンかと思われるが，「家に誰もいないが学童を利用していない」が46.6%となっている。高学年であれば習い事や塾等，ほかにフォローする場所があるが，低学年はそのような場所も少ないはずである。結果報告書について，低学年と高学年でそれぞれ割合等がわかる形にした方が良いのではないか。また，学童の退会理由について，「お子さまが希望した」とあるが，なぜその様な希望になったか原因がわかるか。

鶴丸委員 小学1年生の双子の孫が居り，両親がフルタイム勤務のため一度学童に入れたが，今は学童を辞めて，自宅で自分達の好きなことをして過ごしている。また，現在里親をしている小学生の子どもが放課後等デイサービスに土曜に通っているが，友達と遊ぶ方が楽しいので辞めると言っている。児童公園で過ごしたり，スーパーでお菓子を購入したりして自由に過ごしているようである。学童や放課後等デイサービスに不満があるというより，ただ友達と自由に過ごすことが楽しいと感じているのではないか。

長澤委員 どの場所かというより，友達が利用しているか否かで利用状況が変わるのではないか。

岡委員 保護者の就労状況を問う設問について，複数回答可としているため，1問の中で複数世帯員について回答してもらっているケースがある。「フルタイムで就労している」と回答されていても，「両親ともフルタイムで就労している」場合と，「片方の親がフルタイムで就労しており，もう片方の親は就労していない」場合が考えられる。細かく場合分けを行ったうえで，調査結果を検証するべきではないか。

小谷委員 児童館について，「知っているが利用していない」が40.2%，「知らなかった」が21%となっている。出産後の家庭に児童館を知ってもらうため，出産家庭にごみ袋の引換券を配

布し、市内すべての児童館を引換窓口とする取組があったと思うが、功を奏していない状況なのか。

細川委員 地域にもよるが、この取組で足を運ぶ人は確かに増えたと思う。保健福祉センターでの健診時の児童館PR活動の実施等、少しずつ児童館の知名度は上がっていると思うが、この結果を見てまだまだであると感じている。ただ、学童について言えば、メディア等で取り上げられるなど、まだ不十分なものの、地道に根付いてきているのではないかと考えている。

(資料3：放課後の過ごし方に関する調査（総合支援学校用）への意見等抜粋)

岡委員 保護者の就労状況について、フルタイムで勤務している方の割合が小学校調査と比較して10%以上低くなっている一方、就労したいが出来ない方の割合が高くなっている理由は何か。また、放課後等デイサービス等の利用について高等部が大幅に減少しているが、会員に尋ねたところ、放課後等デイサービスはここ数年で創設された制度であり、高等部の子どもは幼い頃から慣れ親しんだ場所ではないため、途中から通うことに親子とも抵抗があることが挙げられていた。また、特に発達障害の子どもで言えば、学校でも集団生活、放課後も集団だと負担が大きい、一人で好きなことをしたいようである。他にも活動内容が低学年向きで高等部の子どもには合わない、低学年の子どもの音が大きくつらい等も挙がっていた。

京都市  
(西総合) 障害のある子どもの家庭では、保護者がなかなか自分の時間を確保できず、働いている保護者も少ない。ただ、放課後等デイサービスができたことで少しずつ状況は変わってきている。

小谷委員 回答者の区分について、高等部の区分の割合が多くなっているがなぜか。また、保護者の就労状況について、10年程前に総合支援学校に通う保護者にアンケート調査を実施したが、当時は放課後等デイサービスがなかったため、8割近くの方が毎日自宅で子どもをみており、精神的にも肉体的にも疲労感があることが明らかになった。当時の状況と比較すると、かなり就労している保護者が増えたという実感がある。

放課後等デイサービスの満足度がかなり高くなっていることについて、学校から事業者へ確実に送迎が行われていることが保護者の満足度に繋がっている一つであることもデータに現れており、良いことであると感じる。ただ、事業所の職員と学校の連携をしっかりと行って欲しいという声は多く聞いている。

医療的ケアのある子どものいる家庭について、保護者の負担はかなり大きくなっている一方、専門性の担保が困難であり職員が集まりにくく、放課後等デイサービスの数が少ない状況と聞いている。調査報告を見ても、保護者の利用希望のニーズが高いため、今後改善の余地があるのではないかと。